

1998年(平成10年)12月9日(水曜日)

# 下水道工事、渋滞させません

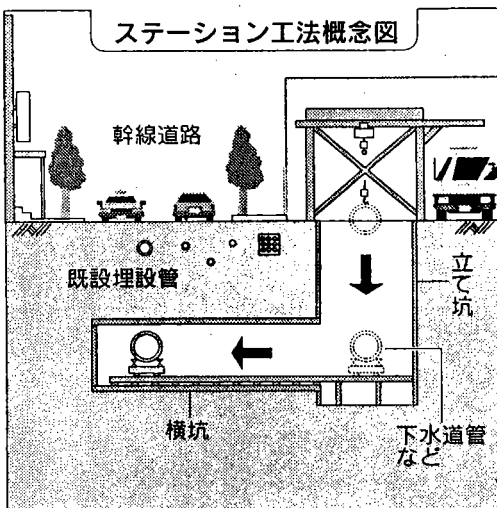
# 道路掘らない新工法

## 機動建設

下水道管敷設など推進工事大手の機動建設工業は道路下の下水道工事などの際に、道路上に立て坑を掘らず車の通行を妨げない「ステーション工法」を開発、実用化にメドをつけた。道

路わきの空き地などに立て坑を掘るため通行制限が不要になり、推進工事に付き物だった交通渋滞などの軽減につながる。交通量の多い都市部での推進工事の需要を狙う。

## わきの立て坑から横坑



新工法は道路わきの空き地、公園などに、土中を掘り進む掘進機、下水道管を搬入するための立て坑を掘り、立て坑から道路下まで横坑を掘る。横坑の中を掘

進機などを道路下までスライドさせて施工する。地上の道路には支障がなく、工事渋滞が生じない。

これまでの推進工事は開削工法と推進工法の二つが

主流。開削工法は下水道管などの埋設に必要な部分すべてを掘り起す。工区すべての道路が通行できなくなるため、長い区間が片側通行となり、交通に大きな障害を及ぼす。

推進工法は道路上に掘進機、下水道管が入る大きさの立て坑を掘り、道路下の地中を掘進機が掘り進む。車が通行できないのは立て坑部分だけだが、それでも

交通制限が必要だった。いずれの工法も交通量の多い都市部では、渋滞に伴う速度低下による時間、燃料損失など社会的費用が生じる。同社は土木学会で発表された資料などを基に、各工法の工事コスト、社会的費用を試算した。

七百円の下水道管などの敷設工事で、工費は開削工法が二億五千五百万円、推進工法が二億三千三百五十

万円、ステーション工法が三億千五百万円。ただ、社会的費用はそれぞれ七千五百万円、四千五百万円、五十万円となった。

新工法は渋滞を回避できるが、道路わきの空き地、公園などを工期中に立て坑として使う社会的費用がかかる。総費用は推進工法が一番低いが、渋滞による社会的費用がかさむ都市部で新工法の定費を図る。